



2016年 日中韓一高層建築フォーラム

2016 China-Japan-Korea Tall Building Forum

アジアの潮流・600mを超えた超々高層

テーマ: **Innovative Motion Engineering in Tall Buildings**

日時: 2016年7月8日(金) 9:00~17:30

場所: 東京工業大学大岡山キャンパス

西9号館・デジタル多目的ホール

(東急目黒線大岡山駅下車徒歩2分・右図赤枠の建物)



開催主旨

本フォーラムは、「CTBUH」(高層ビルと都市居住協議会)のアジアでの活動の一環として、中国、韓国、日本の構造エンジニア、学識経験者を中心に開催している高層建築に関する国際フォーラムです。今回のフォーラムでは、中国からは、500~600m級の超々高層建築の事例2件に加え、李国強教授(同済大学)より新開発のエネルギー吸収機構を有する制振システムについて、韓国からは、来年末完成予定の「ロッテワールドタワー」(555m・ソウル)の事例と、釜山で工事が進められている500m級の超高層RC建築に関する講演が予定されています。

日本からは、基調講演として、笠井和彦教授(東京工業大学)より、“東日本大震災”、“長周期・長時間地震動による高層建築の挙動”、“パッシブ制振”などのトピックを中心に「Performance of Seismic Protective Systems for Super-Tall Buildings and Their Contents」の講演があり、それに関連して既存超高層建築の制振改修の事例紹介が2件と、銀座のランドマークを継承し建設された「GINZA KABUKIZA」に関する講演を予定しています。

中国、韓国で活況を呈している500~600m級の超々高層建築に関する建築計画、構造設計、施工などの説明を実際の担当者から直接聞くことができる絶好の機会であり、日本では未だ実現していないこの規模の超々高層建築に興味を持つ日本国内のエンジニア、学識経験者等の方に一人でも多く参加していただけることを期待します。

プログラム

- 9:00-9:30: 受付
- 9:30-9:45: 開会挨拶(各国代表)
- 9:45-10:30: 基調講演(笠井和彦/東京工業大学教授)
- 11:00-12:30: セッション1(講演3題:日本2、韓国1)
- 13:45-15:15: セッション2(講演3題:中国1、韓国2)
- 15:45-17:15: セッション3(講演3題:中国2、日本1)
- 17:15-17:30: 閉会挨拶(日本代表)

定員: 200名 使用言語: 英語

参加費: 6000~8000円(当日払い)

登録サイト: (一社)日本鋼構造協会 <http://www.jssc.or.jp/>

(事前登録が必要です)

問合せ先: (一社)日本鋼構造協会 (tel: 03-5919-1535)

主催: 日本鋼構造協会 国際委員会「CTBUH対応WG」

共催(予定): (仮称)東京工業大学フロンティア材料研究所

後援(予定): 日本建築学会、日本建築構造技術者協会、

日本免震構造協会、日本風工学会、A-Forum 他



China



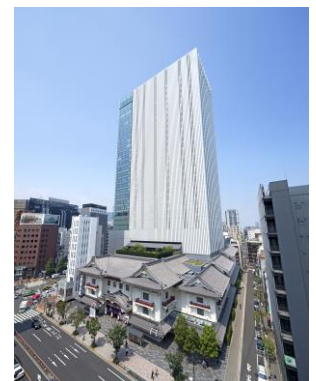
China



Korea



Korea



Japan